

# ふるさと見て歩き

## 第70回

### 野口の命照寺

野口地区若宮の浄土真宗命照寺。現在は小さなお堂が再興されひっそりと建っていますが、寺伝では一二〇〇年という古い歴史を持つ寺院です。

#### ◇命照寺の由緒

寺伝によれば、命照寺は御前山城主小高胤幹（大掾氏）の祈願所として天長二年（八二五）に建立されたといわれています。

ます。当初は高龍山浄楽院命照寺と号し、真言宗寺院でした。

その頃、野口の地には川野辺氏の居城野口城が築かれました。

南北朝の内乱で川野辺氏が敗れると、野口城には佐竹八代行義の子景義（のち高久氏）が入り、野口氏を名乗りました。その後、享祿二年（一五二九）から天文九年（一五四〇）

の部垂の乱で、野口氏は周辺の佐竹庶子家とともに部垂義元側に与して佐竹本家と戦いました。この戦いで部垂側に与した野口、小瀬、高部、長倉等の城が佐竹本家から攻められて落城し、野口城主は自害したといわれます。

野口城から至近の距離にあった命照寺はその同時期に廃絶の危機にあった、と伝えられています。部垂の乱の影響を受け、寺が荒廃し

ていたのでしょう。

その危機を救ったのは、同じ野口の寿命寺でした。真言宗だった命照寺はここで浄土真宗に改宗し、寿命寺末寺として続いていくことになりました。寿命寺は佐竹五代の義繁が出家して親鸞に入門し、入信と号して穴沢（城里町上阿野沢）に開いたとされます。「穴沢の入信」としてのちに親鸞の高弟「二十四輩」に数えられるようになりました。

寛文二年（一六六二）命照寺は火災により焼失しますが、翌年に編さんされた水戸藩の寺社書き上げ『開基帳』には寺領が一石四升、開基は不明であることが記されていて、存続していることがわかります。

元禄五年（一六九二）に再建されたあとは真宗大谷派に属し、大洗願入寺末寺となりますが、幕末の内乱により再び荒廃し、無住状態になっていました。そして、近年まで、ゆかりの寺院や地元住民により管理されてきました。昭和五十八年（一九八三）には堂宇が建立され、長く地元の星野氏により守られてきました。平成十五年には、命照寺は真宗大谷派僧侶清水大慶氏により水戸市牛伏町に再興されましたが、野口の命照寺も地元の方々と同氏により現在の地で管理されています。

#### ◇命照寺の仏像

浄土真宗寺院では、阿弥陀如来を本尊とします。また、それとは別に聖徳太子像、開祖親鸞像、開基（その寺を開いた人物）像などをまつ

ている場合が多くあります。親鸞は聖徳太子をあつく信奉し、夢の中で教えを授けられたため、經典や和讃の中にも聖徳太子が数多く登場します。律宗寺院などでも聖徳太子をまつる習慣がありますが、真宗寺院に存在する例ははるかに多く、大きな特徴といえます。



▲野口・命照寺



▲命照寺旧参道

命照寺にも阿弥陀如来立像二軀と聖徳太子立像一軀などが伝来します。いずれも江戸時代初期以降の制作とみられ、経年のため破損や虫損があり、修復が必要な状態です。しかしそれは、確かにここに命照寺が営まれ、地元の人々の帰依を受けていたことの重要な証といえます。

命照寺には樹齢三百年を超える枝垂れ桜があり、春には見事な花をつけ、檀家の人々に親しまれています。



▲命照寺の枝垂れ桜

※部垂の乱は佐竹十七代義篤の実弟の義元が義篤の宿老小貫俊通の治める部垂城を攻めて制圧したことにより端を発し、周辺の佐竹庶子家とともに本家と戦い、兄義篤に滅ぼされた佐竹家中の内乱。

【参考文献】清水大慶『親鸞聖人ゆかりの寺二十四輩巡拝』（未定稿）

歴史民俗資料館大宮館

☎ 52-1450